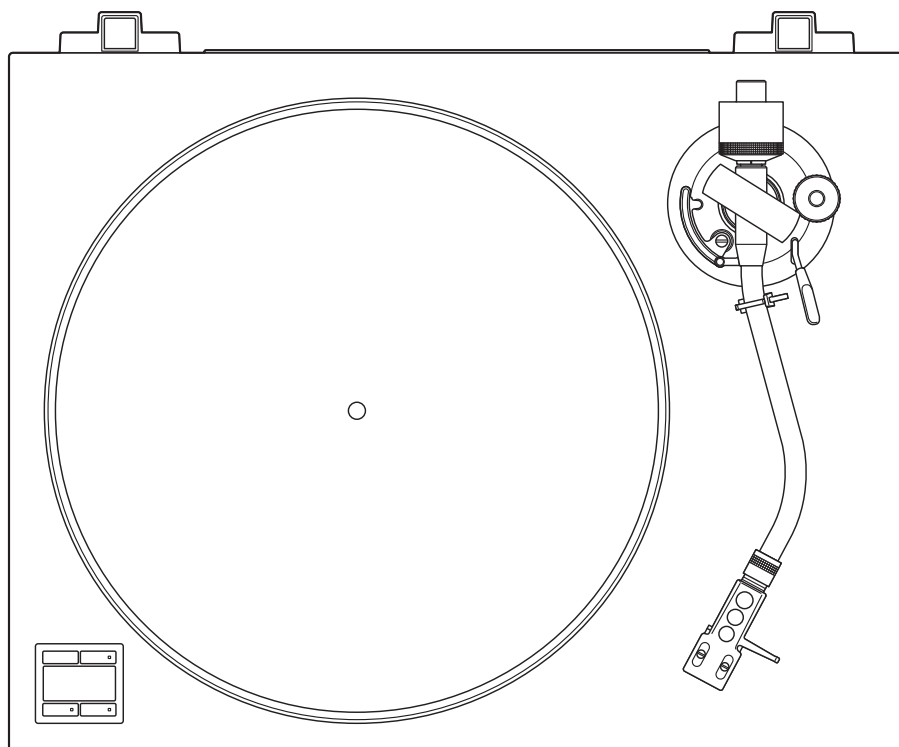


Technics[®]

FRITZ HANSEN



取扱説明書

ダイレクトドライブターンテーブルシステム

SL-40CBTFH

音楽は、国を越えて、
世代を越えて、人の心を揺さぶり続けます。
そして時代はいつも、
新しい感動を求めています。
まだ経験したことのない音との出会い。
音楽を愛するすべての人に、
再び心ふるわせる喜びを。

Rediscover Music

Technics

最高水準の感動を、
世界へお届けします。

Technics は、音と人の関係を大切に思い、
音楽を愛するすべての人に音楽の感動を提供し続け、
世界中の音楽文化の発展に貢献したいと考えています。
これが私たちの掲げたフィロソフィーです。
音をめぐる数々の出会いと経験が凝縮された今ここに、
Technics の理想をめざす、
という確信が生まれました。
すべてにおいて最高クラスの品格と完成度をめざし、
世界中の人々から、憧れを抱いていただける、
幸せを感じていただけるブランドでありたいと願っています。

チーフサウンドマイスター
小川理子

Midhiko Ogawa

はじめに

このたびは、テクニクス製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(4～6ページ)を必ずお読みください。
- 保証書(別添付)は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

■ 本書内の表現について

- 参照していただくページを(⇒00)で示しています。
- 本書における本体および付属品のイラストはイメージです。実物と異なる場合がありますが、ご了承ください。

本機の特長

高精度の安定した回転と高信頼性を実現する コアレス・ダイレクトドライブ方式

- 回転中の微小振動を低減するコアレス・ダイレクトドライブ・モーターと、高精度なモーター制御技術を採用しました。

新型高精度軸受を搭載し、高い初動感度を実現したトーンアーム

- 新設計のトーンアーム軸受方式を採用し高い初動感度を実現、レコードの音溝を正確にトレースします。

レコード再生を気軽に楽しめるコンプリートなパッケージ

- 高品位フォノイコライザーアンプを内蔵、幅広い機器と接続できます。
- 高音質 MM 型カートリッジを付属、簡単なセットアップで快適に楽しめます。
- Bluetooth® 送信機能を搭載、Bluetooth® スピーカーやヘッドフォンなどにワイヤレスで接続して楽しめます。



クイックセットアップガイド

QRコードをスキャンして、セットアップ動画をご覧ください。

もくじ

● ご使用前に

安全上のご注意 (必ずお守りください)	04
付属品	07
各部の名称	08

ご使用前に

● 準備

機器の組み立て	10
● ターンテーブルの準備	11
● ターンテーブルの取り付け	11
● ターンテーブルシートの取り付け	11
● シェルの取り付け	11
● バランスウェイトの取り付け	11
● ターンテーブルの外しかた	11

準備

プリメインアンプやコンポ、Bluetooth® 受信機器に 接続する	12
● LINE 出力端子に接続	12
● PHONO 出力端子に接続	13
● Bluetooth® 受信機器とのペアリング・接続	14

本体の設置	15
● ダストカバーの取り付け	15

機器の調整	16
● 水平(ゼロ)バランスの調整	16
● 針圧の調整	16
● アンチスキューティングの調整	16

● 演奏

演奏のしかた	17
--------------	----

演奏

● 必要なとき

お手入れ	19
カートリッジの取り替え	20
Bluetooth® の各種設定	21
お買い上げ時の設定に戻すには	22
故障かな!?	23
仕様	26
ライセンス	27
Bluetooth® 使用上のお願い	28
保証とアフターサービス	29

必要なとき

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。	 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。
---	-----------------------	---	----------------------------------

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

 してはいけない内容です。	 実行しなければならない内容です。
--	--

警告



電源プラグ
を抜く

異常・故障時には直ちに使用を中止する

異常があったときには、電源プラグを抜く

- 煙が出たり、異常なおいや音がする
- 音声が出ないことがある
- 内部に水や異物が入った
- 電源プラグが異常に熱い
- 本体に変形や破損した部分がある

そのまま使うと火災・感電の原因になります。

- 電源プラグがすぐ抜けるよう、本機は電源コンセントに容易に手が届く位置に設置してください。
- 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。



電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど）

- 傷んだまま使用すると、感電やショートによる火災の原因になります。
- 抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない
たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

小物部品は、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだら、すぐに医師にご相談ください。

警告



本機の上にものを載せない

ものが内部に入り込み、感電、火災や故障の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。

- ・油煙や湯気、水しぶきの当たるところ、湿気やほこりの多いところで使用しないでください。
- ・本機の近くに水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- ・特にお子様にはご注意ください。



分解禁止

分解、改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

- ・内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。



ぬれ手禁止

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因になります。



電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- ・電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- ・長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- ・傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

注意

本機は、温帯気候での使用を意図しています。



不安定な場所に置かない

高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

- ・また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

本機のアームやつまみをつかんで持ち上げたり、運んだりしない

落下すると、けがの原因になることがあります。

- ・また、製品の故障の原因にもなりますので、ご注意ください。

安全上のご注意 (必ずお守りください) (続き)

注意



本機の上に重い物を載せたり、乗ったりしない

ダストカバーが破損してけがの原因になることがあります。

- ・ 特にお子様にはご注意ください。
- ・ また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

本機の上に火のついたろうそくのような裸火を置かない

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、火災の原因になることがあります。

- ・ 本機は、本棚やラックの中など狭い空間に設置しないでください。
- ・ 本機を新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどで覆って放熱を妨げないでください。
- ・ また、外装ケースが変形する原因にもなりますのでご注意ください。

異常に温度が高くなるところに置かない

温度が高くなりすぎると、火災の原因になることがあります。

- ・ 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。
- ・ また、外装ケースや内部部品が劣化する原因にもなりますのでご注意ください。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

ひび割れ、変形したレコードは使わない

- ・ 高速回転しますので、飛び散ったり、飛び出したりしてけがの原因になることがあります。
- ・ 接着剤などで補修したレコードも同様に危険ですので使用しないでください。

本体のアームを目や顔に近づけない、人に向けない

アームの先端に接触して、けがの原因になることがあります。

- ・ アームを使用するときは、十分注意してください。

ターンテーブルの近くにクレジットカードなどの IC カード、磁気カードを近づけない

- ・ 磁気の影響で IC カードや磁気カードが使用できなくなる可能性があります。



接触禁止

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

感電の原因になります。



電源プラグ
を抜く

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。



指はさみ
注意

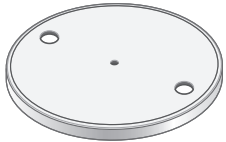
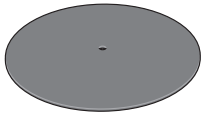
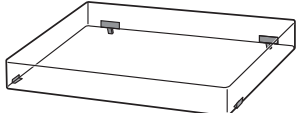
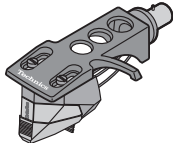
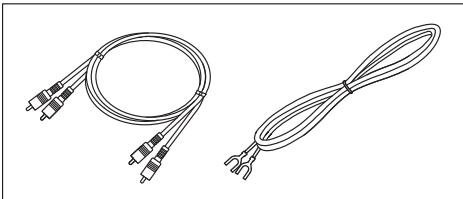
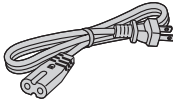
ダストカバーに指をはさまれないように注意する

けがの原因になることがあります。

- ・ 特にお子様にはご注意ください。

付属品

本機は輸送時のショックから保護するために一部の部品を取り外して包装しています。
まず最初に部品と付属品を確かめてください。（一部の部品は袋に入っています）

ターンテーブル（1個） 	ターンテーブルシート（1個） 	ダストカバー（1個） 
EPレコード用アダプター（1個） 	バランスウェイト（1個） 	カートリッジ付きシェル（1個）  ※シェルには ortofon 2M Red 相当品を装着しています。
PHONOケーブル（1個） PHONOアース線（1個） 	電源コード（1本） （品番：1PE1K2CA2YY00402） 	

- 修理時に部品の色やロゴなどが異なるもので対応する場合があります。
- 付属品の品番は2026年5月現在のものです。変更されることがあります。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、分解せずに保管しておいてください。
転宅などで、遠くへ運ばれるときに必要になります。
- 本機を廃棄する場合は、地方自治体の条例にしたがってください。
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。
また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。
- 針は消耗品です。交換針はortofonの「stylus 2M Red」をお買い求めください。

付属品や別売品は販売店で買い求めいただけます。
パナソニックの公式通販サイトでも買い求め
いただけるものもあります。
詳しくはサイトをご覧ください。

パナソニックの
公式通販サイト

<https://panasonic.jp/store/>



愛情点検

長年ご使用のダイレクトドライブターンテーブルシステムの点検を！



こんな
症状は
ありま
せんか

- 煙が出たり、異常なおいや音がある。
- 音声が出ないことがある。
- 内部に水や異物が入った。
- 本体に変形や破損した部分がある。
- その他の異常や故障がある。

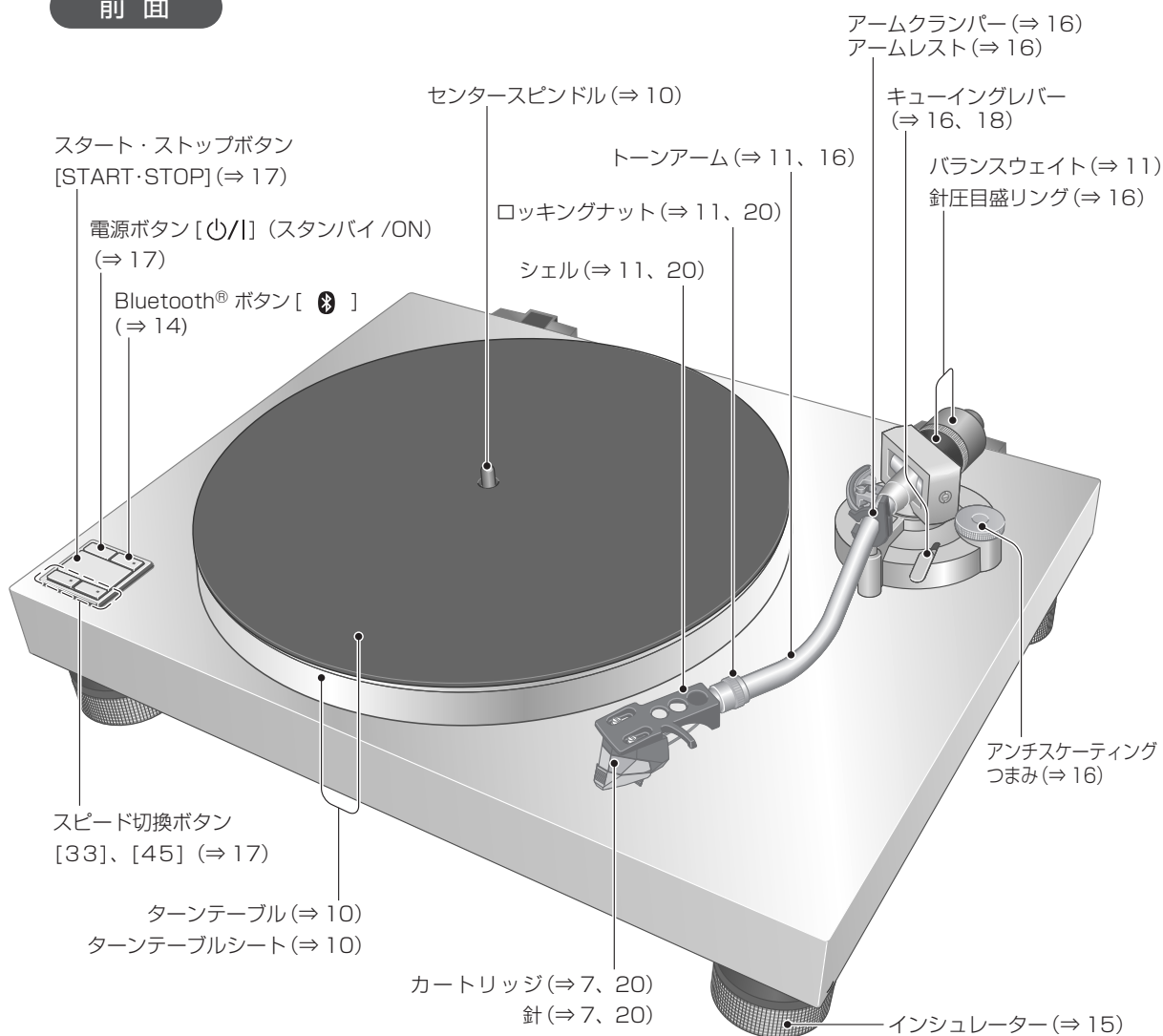
ご使用
中止

故障や事故防止のため、
電源を切り、コンセント
から電源プラグを抜き、
必ず販売店に点検を
ご依頼ください。

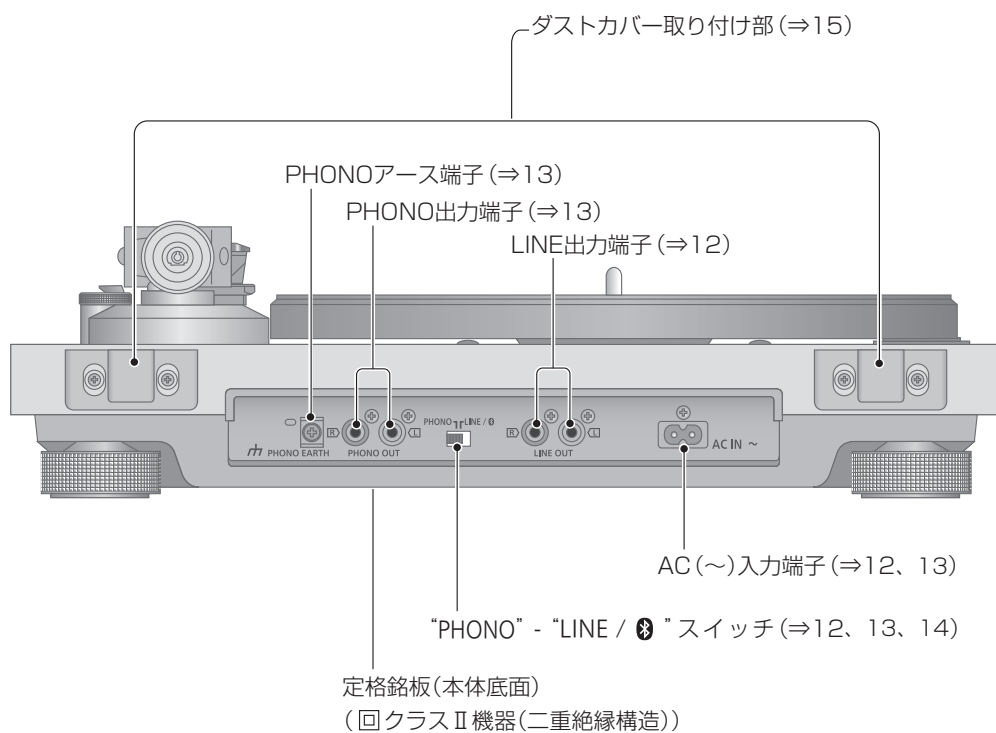
各部の名称

(⇒ 00) などの数字は参照ページです。

前 面



背面



※Bluetooth®受信機器に接続するとき (⇒14)

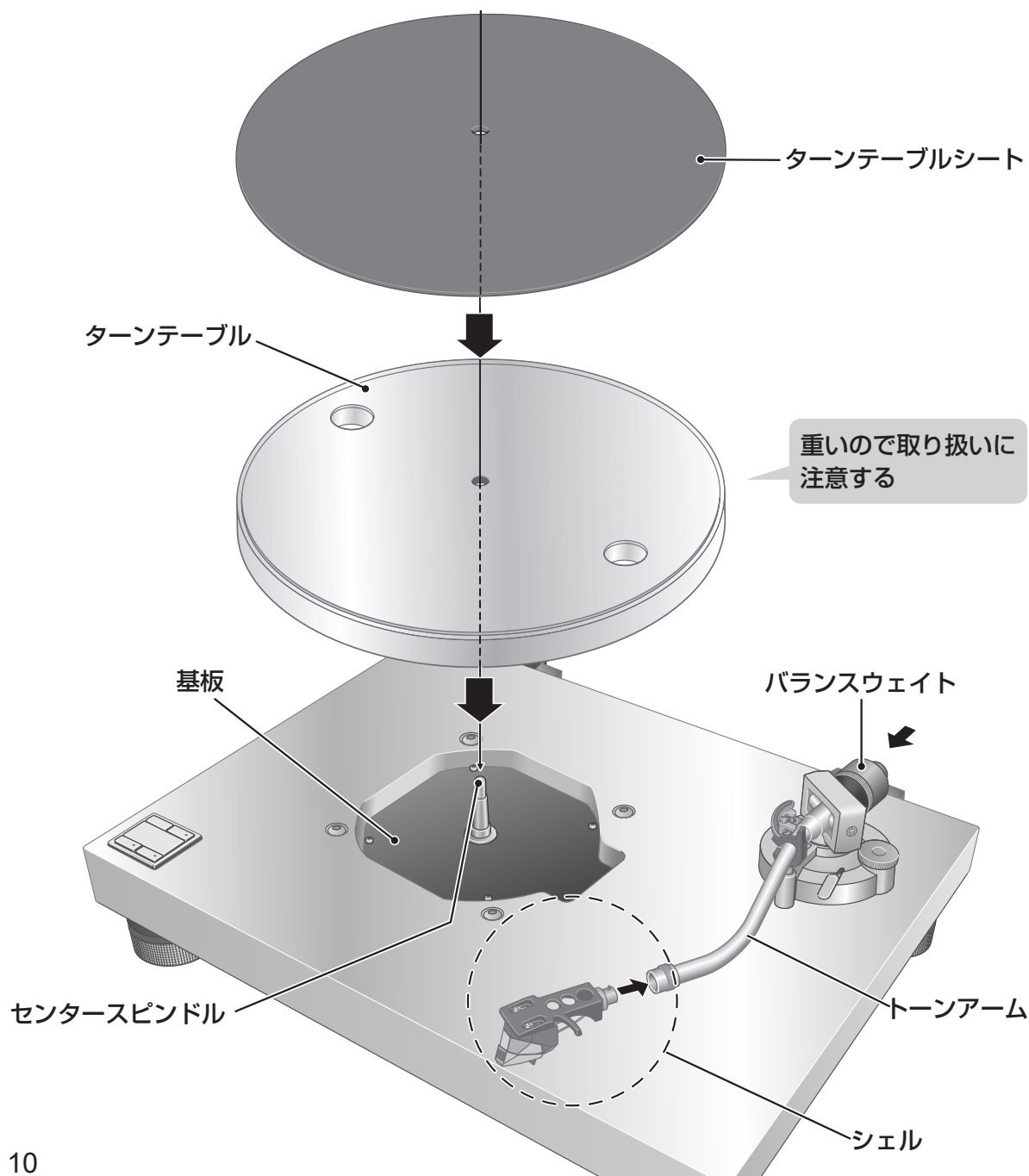
機器の組み立て

輸送時のショックから保護するために一部の部品を取り外して包装しています。

次の順序にしたがって組み立ててください。

お願い

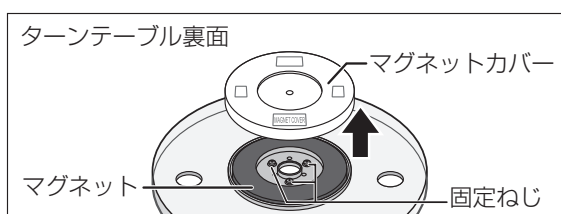
- 組み立て前に針先の保護のために針カバーを取り付け確認 (⇒17)、トーンアームをアームレストに戻しアームクランパーで固定してください。
- 組み立てが完了するまでは電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- ターンテーブルを取り付けの際は、本体とターンテーブルの間に異物が入らないようにご注意ください。
- 基板に触れたり、傷をつけないようにご注意ください。



ターンテーブルの準備

1 ターンテーブルのマグネットカバーを取り外す

- ターンテーブル裏面にはマグネットがついており、カバーで保護されております。本体に取り付ける前にマグネットカバーを取り外してください。



お願い

- マグネットには磁気カードや時計など磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。
- ターンテーブルは、本体に当てたり落としたりしないでください。
裏面のマグネットにごみや鉄粉等が付着しないようにしてください。
- ターンテーブルのマグネット固定ねじ（3箇所）は、さわらないでください。取り付け位置を変えた場合、定格性能の保証はできません。

ターンテーブルの取り付け

2 ターンテーブルをセンタースピンドルにゆっくりはめる

お願い

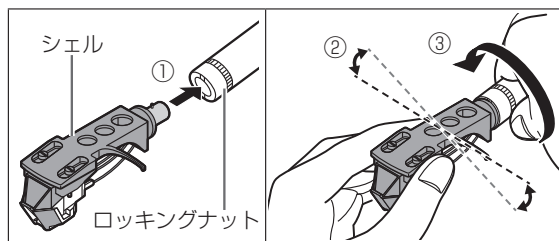
- ターンテーブルは重いので、取り扱いにはご注意ください。
- 指をはさまないようにご注意ください。
- 指紋など汚れが付いたときは、柔らかい布でふいてください。

ターンテーブルシートの取り付け

3 ターンテーブルシートをターンテーブルにのせる

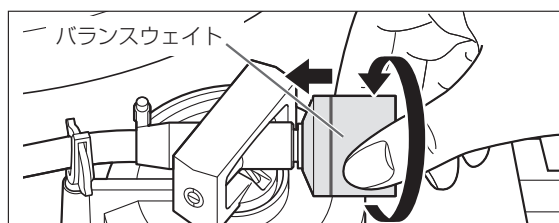
シェルの取り付け

- ### 4
- ① カートリッジを取り付けたシェルをトーンアームにはめる
 - ② シェルを水平に調整する
 - ③ シェルを水平に保持しながら、ロッキングナットで締め付ける
- 針先に触れないようにしてください。



バランスウェイトの取り付け

5 トーンアームの後部軸に、バランスウェイトを取り付ける

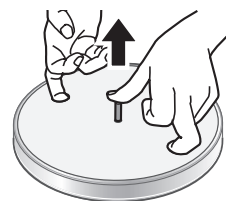


お知らせ

- バランスウェイトの内側にグリスを塗っています。

ターンテーブルの外しかた

下図の様にターンテーブルの2か所の穴に指を入れ、センタースピンドルを押さえながら、真上に引きあげる



プリメインアンプやコンポ、Bluetooth® 受信機器に接続する

お願い

- LINE出力もしくはBluetooth®受信機器で聴く場合は、PHONO出力端子とPHONO アース端子にケーブルを接続しないでください。PHONO出力の場合は、LINE出力端子にケーブルを接続しないでください。誤った接続をすると、ノイズやボツ音が発生するおそれがあります。
- 接続するときは、必ず各機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 電源を入れているときは“PHONO” - “LINE / Bluetooth” スイッチの操作やケーブルの抜き差しをしないでください。
- PHONO出力端子に接続するときは、PHONOアース線の接続は必ず行ってください。接続しないと電源ハム（ブーンという音）が出ます。
- 接続する機器の取扱説明書も確認の上、接続してください。

LINE 出力端子に接続

1 本機および接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

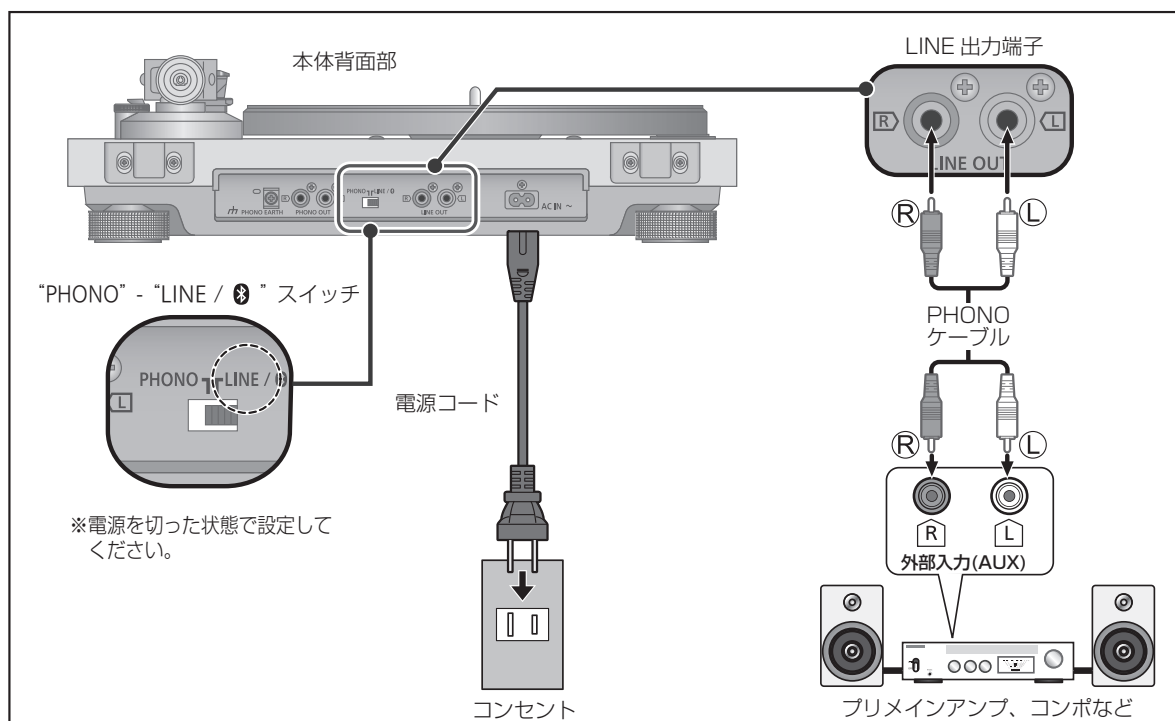
2 PHONO ケーブルを本機の LINE 出力端子と、接続する機器の外部入力端子に接続する

- LINE出力端子を接続しているときは、PHONOアース線は取り付けないでください。
- 接続する機器のPHONO入力端子に接続すると音が大きく音質がひずんで正常に出力されません。

3 “PHONO” - “LINE / Bluetooth” スイッチを“LINE / Bluetooth”にする

4 電源プラグを接続する

- 接続する機器の付属コンセント（ACアウトレット）に接続する場合は、そのコンセントに表示されたワット数を確認してください。本機の消費電力（⇒ 26）



PHONO 出力端子に接続

1 本機および接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

2 PHONO ケーブルを本機の PHONO 出力端子と、接続機器の PHONO 入力端子に接続します。PHONO アース線を本機の PHONO アース端子と、接続機器の PHONO アース端子に接続します。

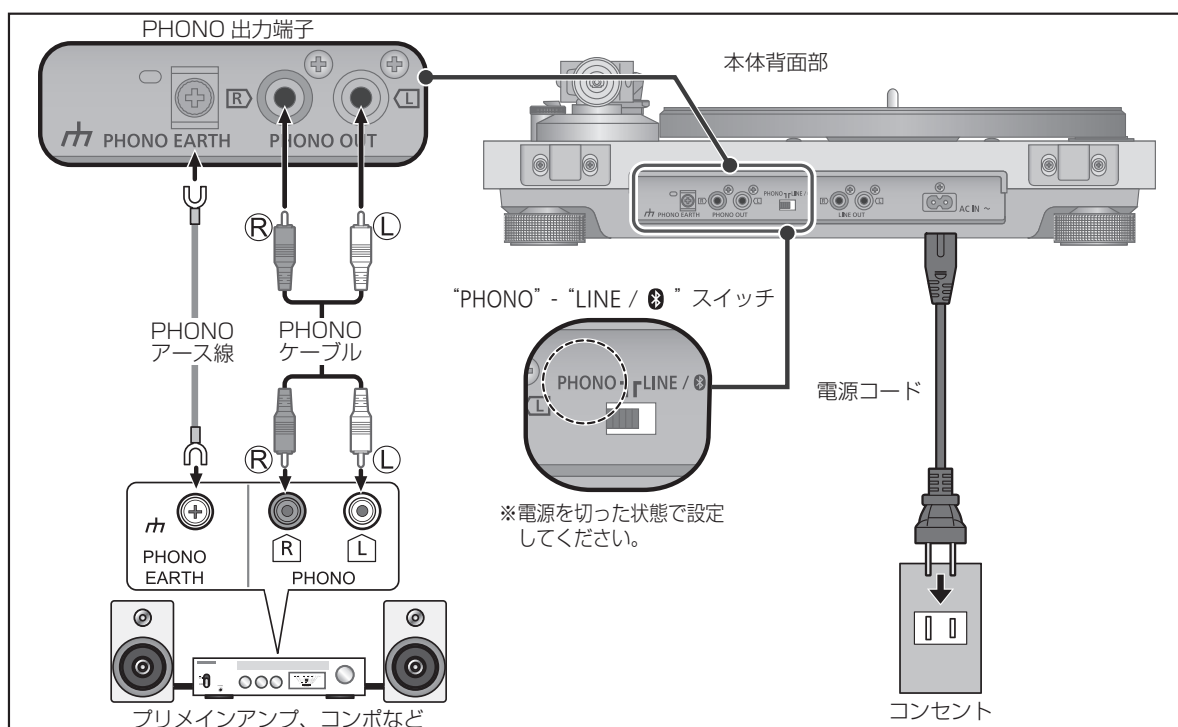
- 接続する機器の外部入力端子に接続すると十分な音量・音質が得られません。

3 “PHONO” - “LINE /  ” スイッチを “PHONO” にする

4 電源プラグを接続する

- 接続する機器の付属コンセント (ACアウトレット) に接続する場合は、そのコンセントに表示されたワット数を確認してください。本機の消費電力 (⇒ 26)

準備



お願い

- PHONOアース端子はプラスドライバーを使用して締め付けてください。
- 電源プラグがすぐに抜ける位置にあるコンセントをお使いください。

お知らせ

- 本体の電源が「切」の状態でも、電源は完全には切れません。長期間使用しないときは、節電のため、電源コードをコンセントから抜いておくことをお勧めします。本体の電源が「切」の状態でも、電力を消費しています。本体の電源が「切」の状態での消費電力(⇒26)

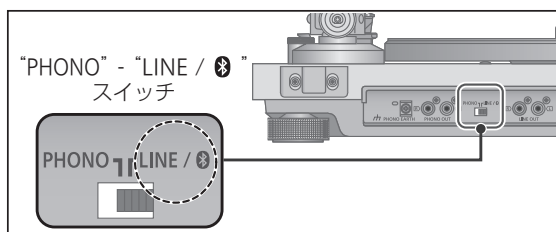
プリーメインアンプやコンポ、Bluetooth® 受信機器に接続する (続き)

Bluetooth® 受信機器とのペアリング・接続

- Bluetooth®受信機器で聴く場合は、PHONO出力端子とPHONO アース端子にケーブルを接続しないでください。
- 接続の前にお使いのBluetooth®受信機器の取扱説明書をご確認ください。
- Bluetooth®受信機器を本機の近く(1 m以内)に置いてペアリングしてください。
- 本機には最大8台の機器を登録できます。9台目の機器をペアリングすると、最も長期間使われていなかった機器と置き換わります。登録解除された機器を再び使用する場合は、登録しなおしてください。
- 本機に音量調整機能はありません。音量調整はBluetooth®受信機器にて行ってください。
- Bluetooth®受信機器の音量を小さくしてから接続してください。接続時に大音量で出力される場合があります。

1 本機背面の“PHONO” - “LINE / [Bluetooth]” スイッチを“LINE / [Bluetooth]”にする

- 本機の電源を切った状態でスイッチを操作してください。



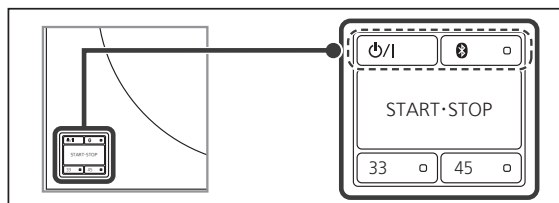
2 本機上面の [電源/|] を押して電源を入れる

3 Bluetooth® 受信機器をペアリングモードにする

- Bluetooth®受信機器をペアリングモードにする方法については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

4 本機上面の [Bluetooth] を押して Bluetooth® 受信機器とペアリングする

- Bluetooth®受信機器が1台も登録されていない場合は、[Bluetooth]を押すと本機が自動的にペアリングモードになります。表示ランプ [Bluetooth] が2秒間隔で点滅し、ターンテーブルがペアリングモードになっていることを知らせます。
- 機器が登録されている場合は、最後に接続した機器に自動的に接続しようとします。
- ペアリングが完了し接続されたら本機の [Bluetooth] の表示ランプが点灯します。



お知らせ

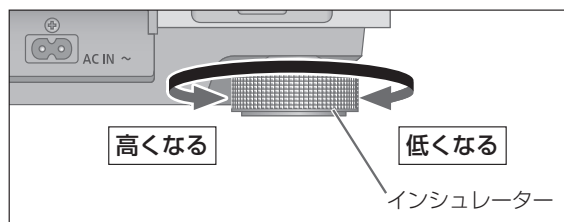
- 接続完了直後に、表示ランプ [Bluetooth] が点滅して音声コーデック種別を知らせます。(aptX™: 3回、SBC: 1回)
- 本機のBluetooth®機器名は「SL-40CBT」です。
- 2台目以降の機器をペアリングする場合、[Bluetooth]を2秒以上(表示ランプが2秒間隔で点滅するまで)押したままにして本機をペアリングモードにします。
- 本機が待機状態のときに[Bluetooth]を押すと、最後に接続していたBluetooth®受信機器に再度接続します。
- 一定の時間(約2分)が経過するとペアリングモードは自動的に終了し、Bluetooth®機能が待機状態になります。ペアリングするには再度手順を実行してください。
- 待機状態で一定の時間(約2分)が経過すると、Bluetooth®機能がオフになります。再度使用する場合は[Bluetooth]を押してください。
- 本機はBluetooth®送信機(スマートフォン、タブレット、パソコンなど)とのペアリングには対応していません。
- 本機はBluetooth®受信機器(Bluetooth®スピーカーまたはヘッドフォンなど)にペアリングし接続できます。
- ペアリングが失敗した場合は、再度試してください。
- 本機はすべてのBluetooth®受信機器との無線接続を保証しているわけではありません。

本体の設置

外部振動を受けにくく、安定した水平な場所に設置してください。

スピーカーシステムからできるだけ離して設置してください。

■ 本体が水平になるように調整する



本体を持ち上げ、インシュレーターを回し調整してください。

- 下から見て、時計回り(右) : 低くなる
- 下から見て、反時計回り(左) : 高くなる

お願い

- インシュレーターを回しすぎないでください。
インシュレーターが外れたり、破損する原因となります。

■ 設置について

- 本機を移動させるときは、電源を切ってから、接続している機器をすべて取り外して移動してください。
- 直射日光、ほこり、湿気などの多い場所や、暖房器具の近くは避けてください。
- ラジオ (FM/AM放送) を極端に近づけると、ラジオに雑音が入る場合があります。
できるだけ本機より離してください。
- 熱源となるものの上に設置しないでください。
- 温度変化が起きやすい場所に設置しないでください。
- 「つゆつき (結露)」が起こりにくい場所に設置してください。
- 不安定な場所に設置しないでください。
- ものを上に載せないでください。
- 本棚の中など狭い空間に設置しないでください。
- 本機内部の放熱をよくするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。
- 設置場所が本機およびシステムの総質量に十分耐えられることをご確認ください。
本機の質量 (⇒ 26)
- タバコの煙や、超音波式加湿器から噴霧された水分も故障の原因になりますのでお気をつけください。

■ 「つゆつき (結露)」について

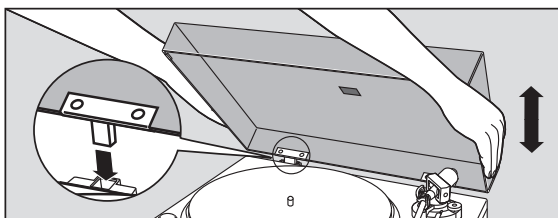
冷えたビンなどを冷蔵庫から出してしばらく置いておくと、ビンの表面に水滴が発生します。このような現象を「つゆつき」といいます。

- 「つゆつき」が発生しやすい状況
 - ◇ 急激な温度変化が起きたとき (暖かい場所から寒い場所への移動やその逆、急激な冷暖房、冷房の風が直接当たるなど)
 - ◇ 湯気が立ち込めるなど、部屋の湿度が高いとき
 - ◇ 梅雨の時期
- 「つゆつき」が起こったときは故障の原因になりますので、部屋の温度になじむまで (約2~3時間)、電源を切ったまま放置してください。

ダストカバーの取り付け

1 両側を支えて、ダストカバーの取り付けヒンジの先端を、本体のダストカバー取り付け部 (⇒ 9) に挿入する

- 外す場合は、ダストカバーを開けた状態で真上に引き上げてください。



お願い

- ダストカバーの取り付け・取り外しは、トーンアームをアームレストに戻しアームクランパーで固定してから行ってください。
- 演奏中はダストカバーを取り付けしないでください。
- ダストカバーの取り付けヒンジの先端が本体に当たると傷が付くおそれがありますので、挿入時にご注意ください。
- トーンアームの後ろに他のTechnicsモデルの補助ウェイトを取り付けるとダストカバーが閉じないおそれがありますのでご注意ください。

機器の調整

水平(ゼロ)バランスの調整

調整の前に

- ダストカバーを取り外してから調整してください。
- 針先にふれないようにして、針カバー(⇒ 17)およびアームクランプを外す。
- キューイングレバーは下に倒しておく。
- アンチスケーティングつまみは「0」にする。

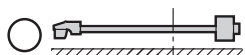
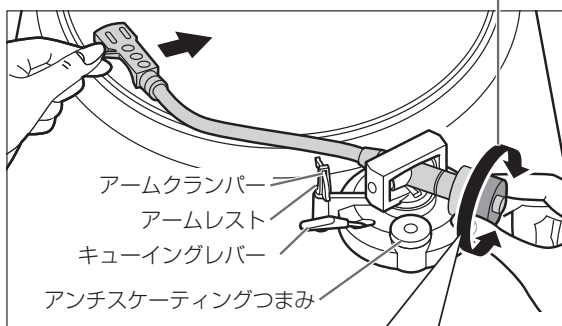
1 トーンアームをアームレストから離し、バランスウェイトを回して水平バランスを調整する

トーンアームを持ちバランスウェイトを矢印方向に回して、トーンアームがほぼ水平になるようにバランスを取りながら調整する。

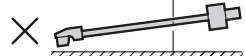
- 針先がターンテーブルシートや本体に触れないようにしてください。

バランスウェイト

ここを回す



トーンアームが水平になり
バランスがとれた状態



バランスウェイトが前方に
寄りすぎている



バランスウェイトが後方に
寄りすぎている

針圧の調整

調整の前に

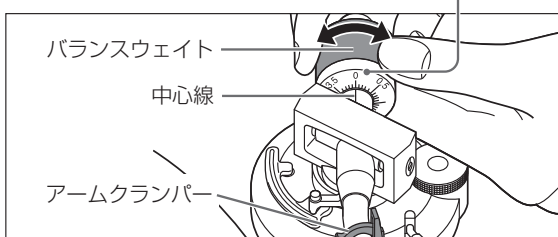
- トーンアームをアームレストに戻し、アームクランプで固定する。

1 針圧目盛リングの「0」をアーム後部軸の中心線に合わせる

- バランスウェイトが動かないように指で支えてください。

針圧目盛リング

ここを回す



お知らせ

- カートリッジの針圧値：1.8 g

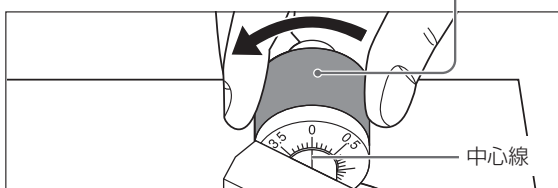
2 バランスウェイトを回して、カートリッジの適正針圧値に合わせる

- バランスウェイトを回すと針圧目盛リングも一緒に回ります。
- 中心線に適正針圧値の目盛を合わせてください。

バランスウェイト

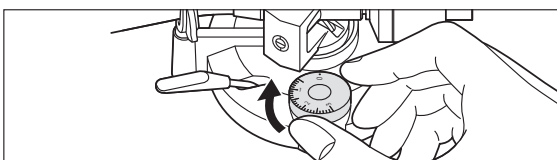
ここを回す

一緒に回る



アンチスケーティングの調整

1 アンチスケーティングつまみを回して針圧値と同じ目盛に合わせる



演奏のしかた

演奏の前に

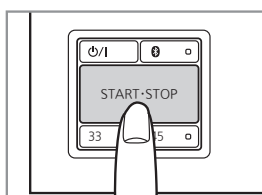
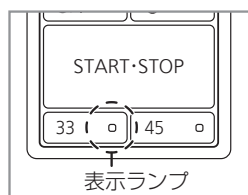
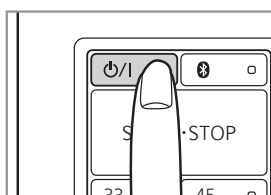
- ★ 1 レコード盤（市販品）をターンテーブルシートにのせます。
- ★ 2 針カバー、アームクランパーを外します。

1 [⏮/I] を押して電源を入れる

自動的に 33- $\frac{1}{2}$ 回転にセットされ
表示ランプ [33] が点灯します。

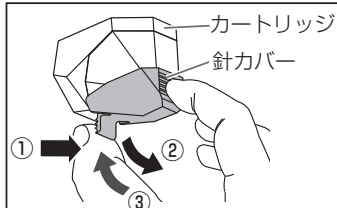
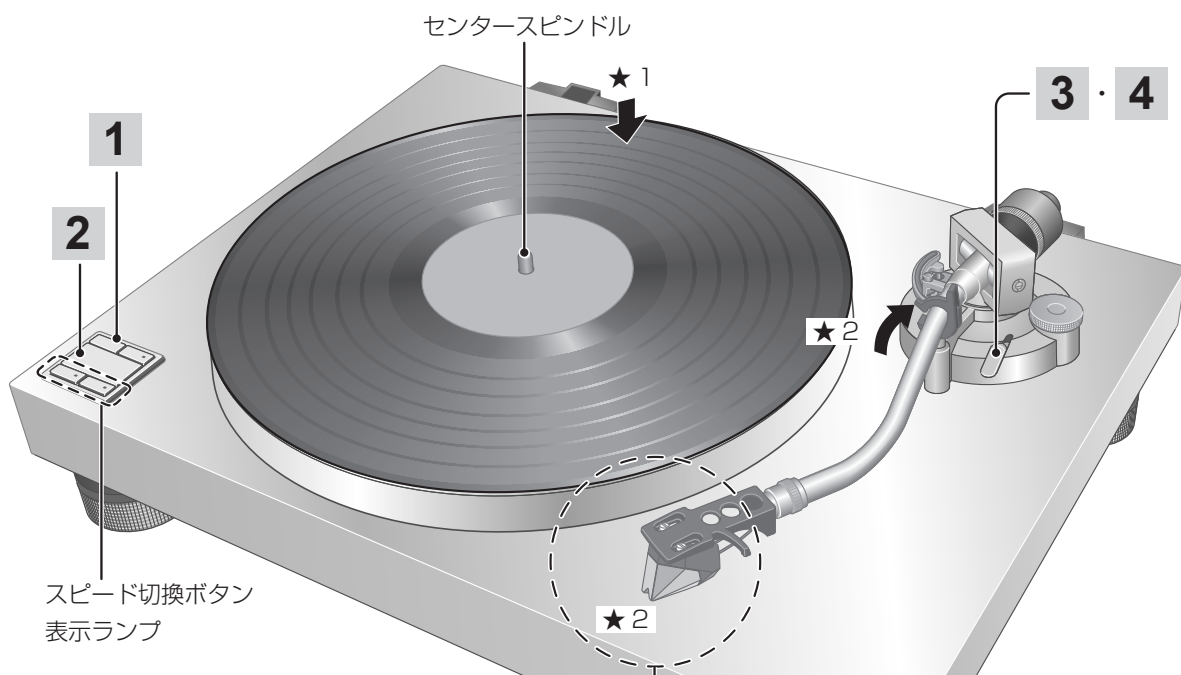
2 [START・STOP] を押す

ターンテーブルが回転します。



お願い

- ターンテーブルをはずした状態で[START・STOP] を押さないでください。
[START・STOP] を押してしまったとき
 - ・すぐにスピード切替ボタンの表示ランプ（[33] または [45]）が点滅します。
→点滅した場合、[⏮/I] を押して電源を切り、ターンテーブルを装着してから再度、[⏮/I] を押して電源を入れてください。
- 本機の電源入り切り時は、接続機器のボリュームを下げておくことをお勧めします。



■ 針カバーを外す

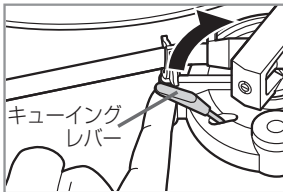
針カバーの前後をつかみ、
後部のラッチ(①)を押しながら、
下にゆっくり傾ける(②)

■ 針カバーを取り付ける

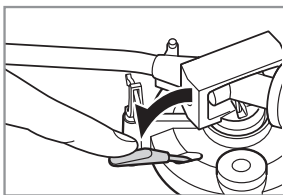
針カバーの前後をつかみ、
針を傷つけないように針カバーを
カートリッジの前に合わせ、上に
ゆっくり持ち上げる(③)

演奏のしかた (続き)

3 キューイングレバーを起こし、トーンアームをレコード盤上に移動する



4 キューイングレバーをゆっくり倒す トーンアームが静かに下降します。



演奏が始まる

■ 演奏を一時中断するには

キューイングレバーを起こす

- カートリッジの針先はレコード盤より離れます。
- 再度演奏するときは、キューイングレバーを倒してください。

■ 演奏が終わったら

- ① キューイングレバーを起こしトーンアームをアームレストに戻したあと、キューイングレバーを下までしっかり倒す
- ② ^{スタート} [START]・^{ストップ} [STOP] を押す
ターンテーブルは電子ブレーキにより滑らかに停止します。
- ③ [⏻/I] を押して電源を切る
- ④ トーンアームをアームクランパーで固定する
- ⑤ 針カバーを付ける (針先保護のため)

■ EPレコード (ドーナツ盤) を演奏するときは

- スピード切換ボタンの[45]を押す。
(表示ランプ[45]が点灯)
- EPレコード用アダプターをセンタースピンドルにはめる。

■ ディスクスタビライザー (市販品) を使用するときは

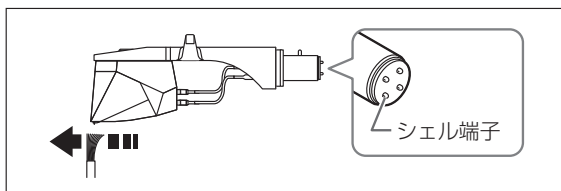
- ディスクスタビライザーの取扱説明書にしたがってご使用ください。
- 重量制限：最大500 g

お手入れ

■ 各部のお手入れ

針先やレコードに付着したほこりやごみは、よく取り除いてください

- カートリッジ付きシェルを取り外し、針先の根もとから先端に向かって柔らかい穂先のはけか毛筆などでていねいに取り除いてください。
- レコード盤はレコードクリーナーでよくふいてください。



シェル端子は、ときどきふいてください

柔らかい布などでシェル端子をふいてトーンアームに取り付けてください。

シェルを着脱するときはアンプのボリュームを下げるか、またはアンプの電源を「切」にしてください。ボリュームを上げたまま行くと大きな音が出て、スピーカーを破損することがあります。

■ ダストカバー、キャビネットなどのお手入れ

ダストカバー、キャビネットなどは、柔らかい布でふいてください

お手入れの際は、基板に触れないでください。故障の原因となりますのでお気をつけください。

汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、柔らかい布で軽くふいてください。

- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤または化学雑巾は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
- 演奏中にダストカバーをふくと、静電気が発生して、トーンアームがダストカバーに引き付けられることがあります。演奏中はダストカバーを取り付けないでください。

■ 転宅などで、遠くへ運ばれるとき

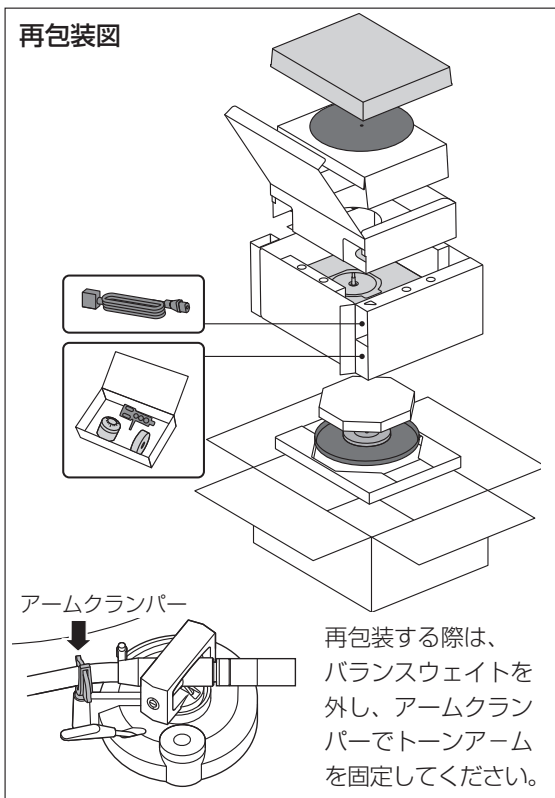
購入時の包装材料で、開梱のときと逆の手順で包装してください

包装材料などは商品を取り出したあと、分解せずに保管しておいてください。

包装材料がない場合、次のことは必ず行ってください。

- ターンテーブルシートとターンテーブルを抜きとり、傷が付かないように包装してください。
- シェルやバランスウェイトは、アームから取り外し、傷が付かないように包装してください。（シェルのカートリッジは針カバーを装着）
- トーンアームをアームクランパーで固定し、さらにテープで止めて動かないようにしてください。
- 本体は、毛布や柔らかい紙で、傷が付かないように包装してください。

再包装図



再包装する際は、バランスウェイトを外し、アームクランパーでトーンアームを固定してください。

■ このマークがある場合は

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分にに関する情報



このシンボルマークはEU域内でのみ有効です。製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

■ 廃棄 / 譲渡するとき

本機にはお客様の操作に関する情報が記録されています。廃棄や譲渡などで本機を手放される場合は、お買い上げ時の設定に戻して、記録された情報を必ず消去してください。（⇒ 22）

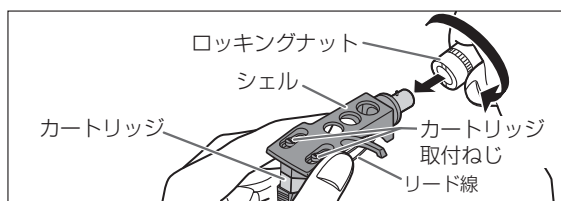
- 本機に記録される個人情報に関しては、お客様の責任で管理してください。

カートリッジの取り替え

本機はアームおよびアームリフトの高さ調整機能を備えておりません。
交換用のカートリッジは「ortofon 2M Red」（高さ（H）：18 mm）を購入の上、ご使用ください。

付属のカートリッジの取り外し

- 1 針カバーを取り付け（⇒ 17）、ロッキングナットをゆるめ、トーンアームからシェルを取り外す
- 2 カートリッジ取付ねじをゆるめ、シェルから付属のカートリッジを取り外す
 - 市販の小型マイナスドライバー（4 mm）をご使用ください。
 - シェルを落とさないよう気を付けてください。
- 3 リード線を端子から取り外す
 - リード線を切らないようにご注意ください。

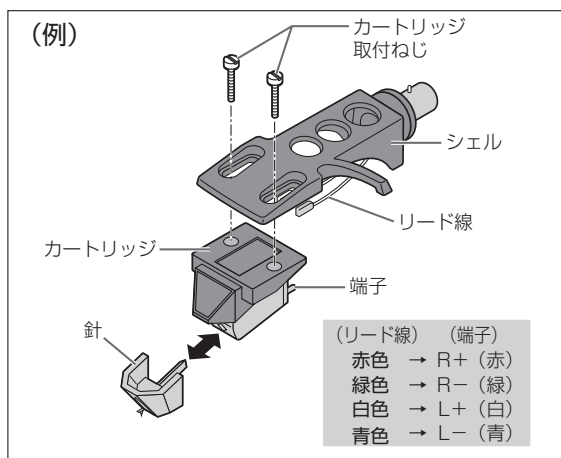


カートリッジの取り付け

- 1 カートリッジを仮止めする

取り替えるカートリッジの取扱説明書にしたがってシェルに正しく取り付け、仮止めのため軽く締めてください。

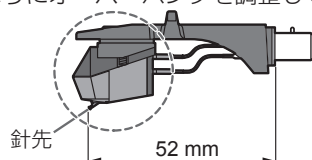
 - 取り替えるカートリッジに付属されている取付ねじやナットをご使用ください。
 - 市販の小型マイナスドライバー（4 mm）をご使用ください。
 - 針先に触れないようにご注意ください。



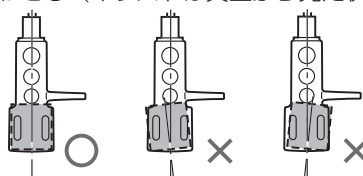
2 オーバーハングを調整する

- 針先に触れないようにご注意ください。

- ① カートリッジを動かして、下図の様に針先がシェルの取り付け端より 52 mm の位置にくるようにオーバーハングを調整してください。

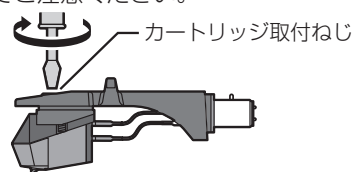


- ② 正面および側面から見て傾きのないように合わせる（イラストは真上から見た状態）



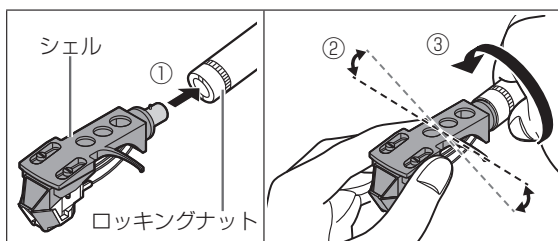
- ③ カートリッジ取付ねじを締め付ける

- 締めるときにカートリッジがずれる場合があるのでご注意ください。



シェルの取り付け

- 1
 - ① カートリッジを取り付けたシェルをトーンアームにはめる
 - ② シェルを水平に調整する
 - ③ シェルを水平に保持しながら、ロッキングナットで締め付ける
 - 針先に触れないようにしてください。



お願い

- 取り外した取付ねじ、ワッシャー、ナットは、なくさないように保管してください。
- 本機はMM型カートリッジ専用です。

Bluetooth® の各種設定

設定方法など詳細については、下記サイトをご確認ください。

<https://jp.technics.com/support/product-faq/SL-40CBT.html>

Bluetooth® の動作設定

Bluetooth® の動作設定を切り替えることができます。お買い上げ時の設定は「手動」です。

常時：

電源を入れると自動的に Bluetooth® 機能が有効になります。

- Bluetooth®機能を頻繁に使用する場合はこの設定が便利です。

手動：

電源を入れても Bluetooth® 機能は無効のままです。

- LINE出力で高音質再生するときはこの設定が便利です。[] を押すとBluetooth®機能が有効になります。

Bluetooth® の再接続設定

Bluetooth® の再接続設定を切り替えることができます。お買い上げ時の設定は「自動」です。

自動：

Bluetooth® 機能が有効になったときに、最後に接続した Bluetooth® 受信機器に自動的に接続しようとします。

- Bluetooth®受信機器（ヘッドフォンなど）を1台だけ使用する場合はこの設定が便利です。

手動：

Bluetooth® 機能が有効になっても、最後に接続した Bluetooth® 受信機器に自動的に接続しません。

- 複数のBluetooth®受信機器（ヘッドフォンなど）を使い分ける場合はこの設定が便利です。使用する Bluetooth®受信機器側から接続してください。[] を押すと、最後に接続したBluetooth®受信機器に接続することができます。

お買い上げ時の設定に戻すには

Bluetooth® の各種設定を初期化する

- 1** 本機の電源を入れ、ターンテーブルが回転していないことを確認する
- 2** 本機上面の [33] と [45] を押しながら、[⏻/⏮] を 10 秒以上押したままにする
 - 表示ランプ[33]と[45]が同時に高速で5回点滅したら、初期化は完了です。

Bluetooth® のペアリング情報を初期化する

- 1** 本機の電源を切り、コンセントから電源コードを抜く
- 2** “PHONO” - “LINE /  ” スイッチを “LINE /  ” にする
- 3** 電源コードを接続する
- 4** 本機の電源を入れ、[] を押す
 - 表示ランプ [] が点滅を始めます。
- 5** [] を 10 秒以上押したままにする
 - 表示ランプ [] が高速で5回点滅したら、初期化は完了です。

- ペアリング情報が初期化されると、それまで登録されていたBluetooth®受信機器に接続できなくなります。再び接続するにはペアリングをやり直してください。(⇒ 14)

故障かな!?

故障かな?と思ったら以下の項目を確かめてください。それでも直らないときや、ここに記載のない症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

全 般

電源が入らない

- 電源プラグが外れていませんか。
→確実に差し込む。(⇒12、13)

電源を入れて、レコードを再生しても音が出ない、音が小さい、音が大きく音質がひずんで正常でない

- 各機器の接続やPHONO出力端子またはLINE出力端子の接続が間違っていないですか。
→PHONO出力端子とアンプのPHONO入力端子を接続する。(⇒13)
→LINE出力端子とアンプの外部入力端子を接続する。(⇒12)
- “PHONO” - “LINE /  ” スイッチの設定を確認してください。(⇒12、13)

左右の音が逆になる

- 各機器の接続が左右逆になっていませんか。
→正しく接続する。(⇒12、13)
- シェルのリード線とカートリッジの端子の接続が間違っていないですか。
→正しく接続する。(⇒20)

演奏中にブーンという低い音(ハム音またはバズ音)、ノイズやボツ音が入る

- 接続コードの近くに蛍光灯などの電気器具やその電源コードがありませんか。
→蛍光灯または他の機器の電源コードをできるだけ離してみる。
- PHONOアース線が外れていませんか。
→PHONO出力端子に接続するときは、PHONOアース線を正しく接続する。(⇒13)
- PHONO出力端子を使用しているときに、“PHONO” - “LINE /  ” スイッチを“LINE /  ” にしていませんか。
LINE 出力端子またはBluetooth[®]を使用しているときに、PHONO出力端子とPHONOアース端子にケーブルを接続していませんか。
→どちらか一方の接続にする。(⇒12、13、14)

表示ランプ([33]、[45]、[])が高速で点滅している

表示ランプ([33]、[45]、[])が高速で点滅する場合、下記の手順の操作を行ってください。
症状が改善されることがあります。

- ① [ / I] を押して電源を切る。
 - ② 電源プラグを抜いて3秒以上後に差し込む。
 - ③ [ / I] を押して電源を入れ、[START・STOP] を押してターンテーブルを回す。
- 再びスピード切換ボタンの表示ランプが点滅した場合、どこが点滅しているかを確認して「修理相談窓口」にご連絡ください。

故障かな!?(続き)

Bluetooth®

ペアリングが完了しない

- Bluetooth®受信機器の状態を確認してください。
- Bluetooth®バージョン2.0以前のBluetooth®受信機器には対応していません。
- Bluetooth®受信機器の位置が離れすぎていませんか。→本機に近づけて、再度ペアリングしてみてください。

機器と接続できない

- 機器のペアリングが失敗したか、登録が上書きされています。機器を再度ペアリングしてください。(⇒14)
- 本機が別の機器に接続されているかもしれません。他の機器との接続を解除し、再度ペアリングしてください。
- 本機の [] を押して機器と接続してみてください。
- 本機とBluetooth®受信機器の電源を一度切って入れ直し、再度試してください。問題が解決しない場合は、電源を入れる順番を変えてみてください。
- 「Bluetooth®の各種設定」(⇒21) の設定を変えてみてください。

接続はされているが、Bluetooth® 受信機器から音が聞こえない

- 一部のBluetooth®受信機器は、音声出力を手動で設定する必要があります。詳細については、その機器の取扱説明書をご覧ください。
- Bluetooth®受信機器の音量が小さすぎませんか。→接続したBluetooth®受信機器の音量を調節してください。
- Bluetooth®受信機器から音が出るまでに少し時間がかかります。もう少しお待ちください。
- 接続したBluetooth®受信機器が本機とは別のBluetooth®機器にも接続されていませんか。→本機とは別のBluetooth®機器の電源を切ってください。

音が途切れる

- Bluetooth®受信機器を本機に近づけてください。
- 本機と機器の間の障害物を取り除いてください。
- 2.4 GHzの周波数帯を使用する他の機器(無線ルーター、電子レンジ、コードレス電話など)が干渉しています。Bluetooth®受信機器を本機に近づけ、他の機器からは遠ざけてください。

Bluetooth® 機能が働かない

- 本機背面の“PHONO” - “LINE /  ”スイッチが“PHONO”になっていませんか。→本機背面の“PHONO” - “LINE /  ”スイッチの設定を確認してください。(⇒14)
- [] を押してみてください。

表示ランプ [] が高速で3回点滅する

- 本機背面の“PHONO” - “LINE /  ”スイッチが“PHONO”になっていませんか。→本機背面の“PHONO” - “LINE /  ”スイッチの設定を確認してください。(⇒14)

Bluetooth® のペアリング情報を初期化できない

- 本機がBluetooth®受信機器と接続しているかもしれません。接続しているBluetooth®受信機器の電源を切り、再度試してください。

■表示ランプ [] の状態

表示ランプ [] の点灯 / 点滅仕様	Bluetooth® の状態
消灯 	Bluetooth® 機能オフ
点灯 	接続完了
4 秒間隔で点滅 	待機
ゆっくり点滅 (2 秒間隔) 	ペアリングモード
ゆっくり点滅 (1 秒間隔) 	接続中
高速で 3 回点滅 	Bluetooth® 機能が無効になっています。 本機背面の “PHONO” - “LINE /  ” スイッチの設定を確認してください。

仕 様

総 合	
電 源	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	4 W (電源オン時) 0.2 W (電源オフ時)
外形寸法	430×128×353 mm (幅×高さ×奥行)
質 量	約7.1 kg
動作温度	0 °C ~ + 40 °C
動作湿度	35 % ~ 80 % (結露のないこと)
ターンテーブル部	
形 式	ダイレクトドライブターン テーブルシステム (マニュアル)
駆動方式	ダイレクトドライブ
駆動モーター	ブラシレスDCモーター
ターンテーブル	アルミダイカスト 直径: 300 mm 質量: 約1.26 kg (ターンテーブルシート含む)
回転数	33-⅓ rpm、45 rpm
起動特性	0.7 s (33-⅓ rpm時)
ブレーキ機構	電子ブレーキ
ワウ・フラッター	0.025 % W.R.M.S.
トーンアーム部	
形 式	ユニバーサルS字形トーンアーム スタティックバランス形
アーム有効長	230 mm
オーバーハング	15 mm
トラッキング エラー角	+2° 32' (30 cmレコード外周) +0° 32' (30 cmレコード内周)
オフセット角	22°
フォノイコライザー部	
ゲイン	36.5 dB
カートリッジ部	
モデル名	ortofon 2M Red

Bluetooth®部	
バージョン	Bluetooth® Ver. 5.4
送信出力	Class 1
対応プロファイル	A2DP
対応コーデック	Qualcomm® aptX™ Adaptive、 SBC
通信方式	2.4 GHz Band FH-SS
見通し通信距離	約10 m※
ターミナル部	
出力端子	PHONO 出力端子 PHONO アース端子 LINE 出力端子

※予想通信距離測定環境：

温度 25 °C / 高さ 1.0 m

この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

ライセンス

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。パナソニックホールディングス株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

Qualcomm aptX is a product of Qualcomm Technologies, Inc. and/or its subsidiaries.
Qualcomm is a trademark of Qualcomm Incorporated, registered in the United States and other countries. aptX is a trademark of Qualcomm Technologies International, Ltd., registered in the United States and other countries.

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

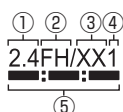
Bluetooth® 使用上のお願い

■ 使用周波数帯

内蔵無線機器は 2.4 GHz 帯の周波数帯を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に留意してご使用ください。

■ 周波数表示の見方

周波数表示は、定格銘板に記載しています。



- ① 2.4 GHz 帯を使用
- ② 変調方式が FH-SS 方式
- ③ その他の方式
- ④ 電波干渉距離 10 m 以下
- ⑤ 全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避不可である

この機器の使用周波数帯域では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていない事を確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに使用周波数を変更するか、または電波の使用を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きた時は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：パナソニック

ご相談窓口（⇒ 29）

■ 機器認定

内蔵無線機器は、電波法に基づく工事設計認証を受けていますので、無線局の免許は不要です。ただし、内蔵無線機器に以下の行為を行うことは、電波法で禁止されています。

- 分解 / 改造する
- 定格銘板を消す / はがす

■ 使用制限

内蔵無線機器の使用に当たり、以下の制限がありますのであらかじめご了承ください。

制限をお守りいただけなかった場合、および内蔵無線機器の使用または使用不能から生ずる付随的な損害などについては、当社は一切の責任を負いかねます。

- 日本国内でのみ使用できます。

- 磁場・静電気・電波障害が発生するところで使用しないでください。

次の機器の付近などで使用すると、通信が途切れたり、速度が遅くなることがあります。

- 電子レンジ
- デジタルコードレス電話機
- その他 2.4 GHz 帯の電波を使用する機器の近く（ワイヤレスオーディオ機器、ゲーム機など）
- 電波が反射しやすい金属物などの近く

- すべての Bluetooth® 機器との無線通信を保証するものではありません。

- 無線通信する Bluetooth® 機器は、The Bluetooth SIG, Inc. の定める標準規格に適合し、認証を受けている必要があります。ただし、標準規格に適合している機器であれば、一部動作する場合がありますが、機器の仕様や設定により、接続できないことがあり、操作方法・表示・動作を保証するものではありません。

- Bluetooth® 標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、使用環境および設定内容によってはセキュリティが十分でない場合があります。ワイヤレス通信時にご注意ください。

- ワイヤレス通信時に発生したデータおよび情報の漏えいについて、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 使用可能距離

見通し距離約 10 m 以内で使用してください。間に障害物や近くに干渉機器がある場合や、人が間に入った場合、周囲の環境、建物の構造によって使用可能距離は短くなります。上記の距離を保証するものではありませんのでご了承ください。

- 放送局などが近くにあり周囲の電波が強すぎると、正常に動作しないことがあります。

■ 用途制限

内蔵無線機器は一般用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途※での使用を想定して設計・製造されたものではありません。ハイセイフティ用途に使用しないでください。

※ハイセイフティ用途：きわめて高度な安全性が要求され、直接生命・身体に重大な危険性を伴う用途のこと。

例：原子力施設における核反応制御 / 航空機自動飛行制御 / 航空交通管制 / 大量輸送システムにおける運航制御 / 生命維持のための医療機器 / 兵器システムにおけるミサイル発射制御、など

保証とアフターサービス

使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください

▼ お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名

電 話 () —

お買い上げ日 年 月 日

- 保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。
保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間
- 保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

- 修理時に部品の色やロゴなどが異なるもので対応する場合があります。

修理を依頼されるときは

23ページの「故障かな!？」でご確認のあと、直らないときは、電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ日と下の内容をご連絡ください。

●製品名	ダイレクトドライブ ターンテーブルシステム
●品 番	SL-40CBTFH
●故障の状況	できるだけ具体的に

※補修用性能部品の保有期間 8年

当社は、このダイレクトドライブターンテーブルシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後8年保有しています。

転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください

ご 相 談 窓 口

使い方・お手入れなどのご相談

よくあるご質問(FAQ)やチャットなどでご確認、ご相談できます。

<https://panasonic.jp/support/>



AIオペレーターによる対応はこちら(24時間365日受付) ☎ 0120-878-982

有人対応の受付時間 9:00~18:00 月~土曜日(祝日・正月三が日を除く)

・固定電話をご利用の方は ☎ 0120-878-982

・上記番号がご利用いただけない場合は ☎ 0570-087-982 (有料)

FAXフリーダイヤル: ☎ 0120-878-236

電話番号・受付時間は予告なく変更する場合があります。
最新情報は上記QRコードから確認できます。

修理に関するご相談

修理のご相談・お申込みができます。
【オンライン24時間365日受付】

<https://panasonic.jp/support/repair.html>



☎ 0120-878-554 左記電話番号が
ご利用いただけない場合は 03-6633-6700

受付時間 9:00~18:00 (一部地域を除く)

- ・掲載サイトおよび動画の視聴は無料ですが、通信料金はおお客様のご負担となります。(IPネット定額サービス未加入の場合、高額になる可能性があります)
- ・ご使用の回線(IP電話やひかり電話など)によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
- ・上記のURLはお使いの携帯電話などにより、正しく表示されない場合があります。
- ・受付時間などの最新情報はWebサイトをご確認ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

必要
な
と
き

パナソニックの会員サービス「**CLUB Panasonic**」に「**商品登録**」をお願いします

ご利用の家電をまとめて登録管理、商品のサポートも充実
詳しくはこちら <https://panasonic.jp/membership/mylist>



パナソニック株式会社

〒570-0021 大阪府守口市八雲東町1丁目10番12号

© Panasonic Corporation 2026



DVQX2975ZA/X1
S0526HE0